

2014/6/10

柏の景気情報（平成26年5月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援一課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成26年5月分）

○ 調査期間 : 平成26年5月20日 ~ 5月27日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	85	54.5%
建設	44	24	54.5%
製造	33	17	51.5%
卸・小売	43	28	65.1%
サービス	36	16	44.4%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。
と調査表

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成26年5月の調査結果のポイント】

≪業況DIは悪化するも、見通しは改善。底打ちの兆しか≫

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23.5(前月水準▲15.4)となり、マイナス幅が8.1ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、サービス業±0.0(同△8.3)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲11.7(同△11.1)、であり、▲22.8ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲20.8(同▲15.3)、卸小売業▲46.4(同▲42.8)である。

【建設業】からは、「4月に入ってから続いている業況に材料メーカー、下請けからの仕事の問い合わせが頻繁である。どこも新築物件は減っている。ただ、3月迄に間に合わなかった改修工事やメンテ、リフォーム工事の話から見積り依頼が出てきている」(その他の職別工事業)、「消費税の影響で仕入単価が上昇。駆け込み前の反動が引き続きあり、受注は減少。しかし、梅雨前に畳を新しくしたり、畳表替や裏返しを模様替え感覚でやりたいというお客様が増えてきていることに感謝」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「1~2年先の話も出てきており、それに伴う設備投資を行う予定」(特殊産業用機械)、「4月は消費税増税の反動があり、商品在庫が過剰となったが、その後持ち直しつつある」(酒類製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「時計・宝飾品の高額品および化粧品といった増税特需の恩恵を受けた商材は4月に続き反動で苦戦。但し、客数のトレンドは回復遅いも客単価は前年並みまで回復」(百貨店)、「消費税が上がってから、調味料、洗剤等が大きく下降している。2ヶ月経ちますがまだまだ回復できない。生鮮品等も客数が減少していることから売上も下がったままになっている」(その他の各種商品小売業)、「4月の駆け込みの反動減は収まりつつあるが、従来の落ち込みに戻っただけ。今後も『激安』と『高級志向』の2極化が進みそう」(その他の各種商品小売業)、「ギフトの高額商品(3,000円以上)の売上鈍化」(菓子・パン小売業)、「慢性的な人手不足が続き、将来に不安を感じる。仕事は順調に推移しているが、人手不足により受注を制限している状況」(一般機械器具卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「≪法人需要≫秋の職場旅行、招待旅行の案件が活性化している。国土交通省定めによる新貸切バス運賃制度による貸切バス代金の上昇。≪個人需要≫海外旅行では、夏休み商戦真っ只中。家族でグアム、サイパンが人気。国内旅行では、夏休みの某テーマパークが人気。新しく発売となった商品の入場待ち短縮時間で」(旅行業)、「賃貸住宅は年度内の繁忙期に入居者入替りが少なく、年度末過ぎの退去が重なったため、空き室率が上がってしまった。改善には時間が必要。1階テナントには需要はあるが、高層階の稼働は時間を要す。また、光熱費等の管理費の増加を実感しています」(不動産賃貸・管理業)、「前年同月との比較は良好ではありますが、このところ材料の仕入れ値段の上昇が激しくなり、また、当月後半は売上が悪くなり、今後は厳しくなりそうです」(酒場・ビヤホール)などのコメントが寄せられた。

◎消費税増税

各業種から、「消費税の増税が落ち着き、工事の見通しもそこそこ。いまひとつ活気は無いが、今後の動きに期待している」(電気工事業)、「夏物が好調でしたが、天候不順で鈍る(夏服・飲料)。増税分の価格表示に検討の余地あり。各種店舗を参考にしているが、全商品に活かしきれない。今年に入り人材が不足がち。カード会員の効果が出ているためか、遠方からのレポート来店がある」(その他の飲食料品小売業)などのコメントが寄せられた。

◎駆け込み需要の反動

各業種から、「増税前の問い合わせにより、受注した仕事を消化している。増税前の見積りだったので、請求時に価格の相談を受けることがあり、増税分を全て反映させるのは少し難しい。4月以降問い合わせが減少しているのも、これからは不安がある」(塗装工事業)、「例年以上に5月のGW明けの落ち込みが大きかった。消費税増税の反動がここに来て出てきたのか」(菓子・パン小売業)などの声が寄せられた。

◎仕入単価上昇

各業種から、「材料は高騰したまま下がらず、施工単価は見直しされないままである。むしろ現在物件が少ない状態の為、値引きを強いられている。採算の合わない状態に受注出来ない物件が多い」(その他の職別工事業)、「インドネシアがニッケル鉱石の輸出を止めたことやウクライナ問題を巡るロシアの供給不安により、ニッケル単価が上昇を続けており、それに伴ってステンレスの価格が高騰している」(その他の機械・同部品製造業)、「消費税増税後の買い控えの影響はなくなってきました。仕入れ原価の上昇は続いています」(各種食料品小売業)などの声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
12月	▲14.4	△13.6	±0.0	▲37.1	▲16.6
1月	▲2.2	△29.1	△22.2	▲40.6	±0.0
2月	▲17.6	▲16.6	±0.0	▲35.7	▲6.6
3月	▲11.2	△4.5	±0.0	▲32.1	▲6.6
4月	▲15.4	▲15.3	△11.1	▲42.8	△8.3
5月	▲23.5	▲20.8	▲11.7	▲46.4	±0.0
見通し	▲11.7	▲4.1	△11.7	▲42.8	△6.2

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成26年5月の業況についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23.5(前月水準▲15.4)となり、マイナス幅が8.1ポイント拡大した。

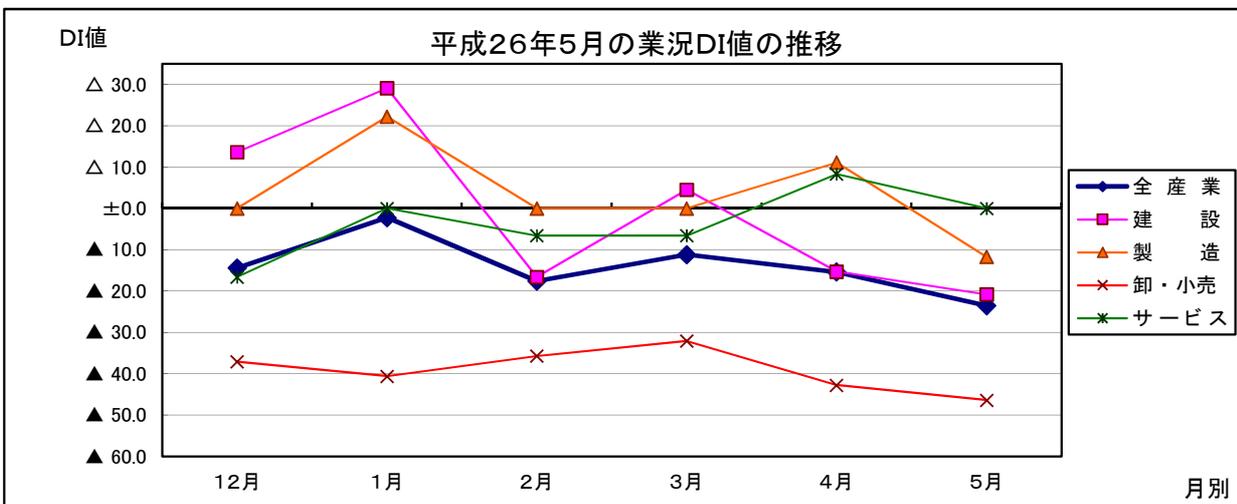
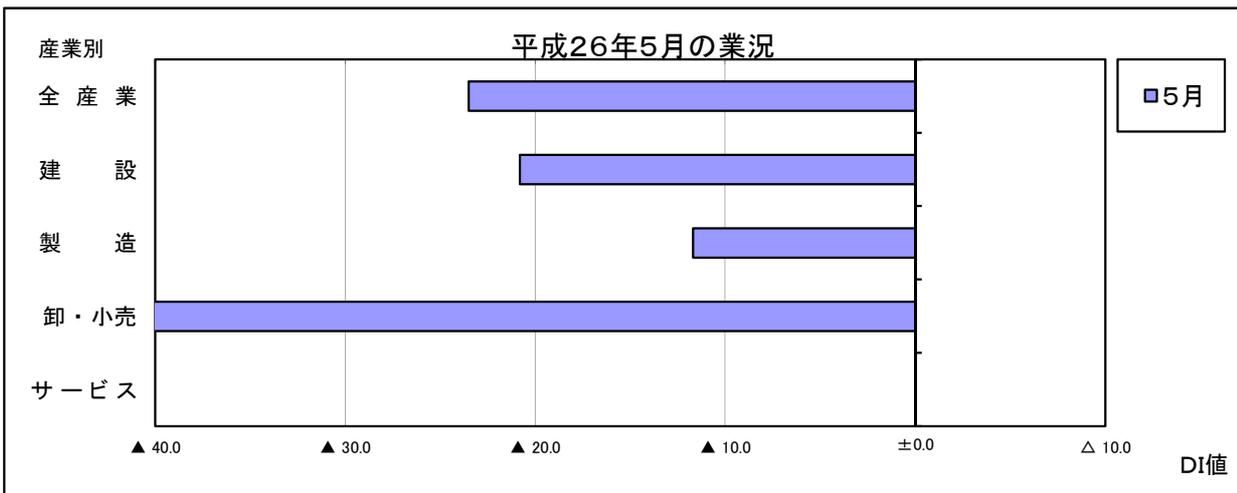
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、サービス業±0.0(同△8.3)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲11.7(同△11.1)、であり、▲22.8ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲20.8(同▲15.3)、卸小売業▲46.4(同▲42.8)である。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲11.7(前月水準▲20.2)となり、マイナス幅が8.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業△11.7(同▲5.5)、サービス業△6.2(同▲8.3)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲42.8(同▲50.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲4.1(同▲3.8)である。

平成26年5月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 12月	平成26年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲14.4	▲2.2	▲17.6	▲11.2	▲15.4	▲23.5	▲11.7(▲20.2)
建設	△13.6	△29.1	▲16.6	△4.5	▲15.3	▲20.8	▲4.1(▲3.8)
製造	±0.0	△22.2	±0.0	±0.0	△11.1	▲11.7	△11.7(▲5.5)
卸・小売	▲37.1	▲40.6	▲35.7	▲32.1	▲42.8	▲46.4	▲42.8(▲50.0)
サービス	▲16.6	±0.0	▲6.6	▲6.6	△8.3	±0.0	△6.2(▲8.3)



【平成26年5月の売上についての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲23.5(前月水準▲9.5)となり、マイナス幅が14.0ポイント拡大した。

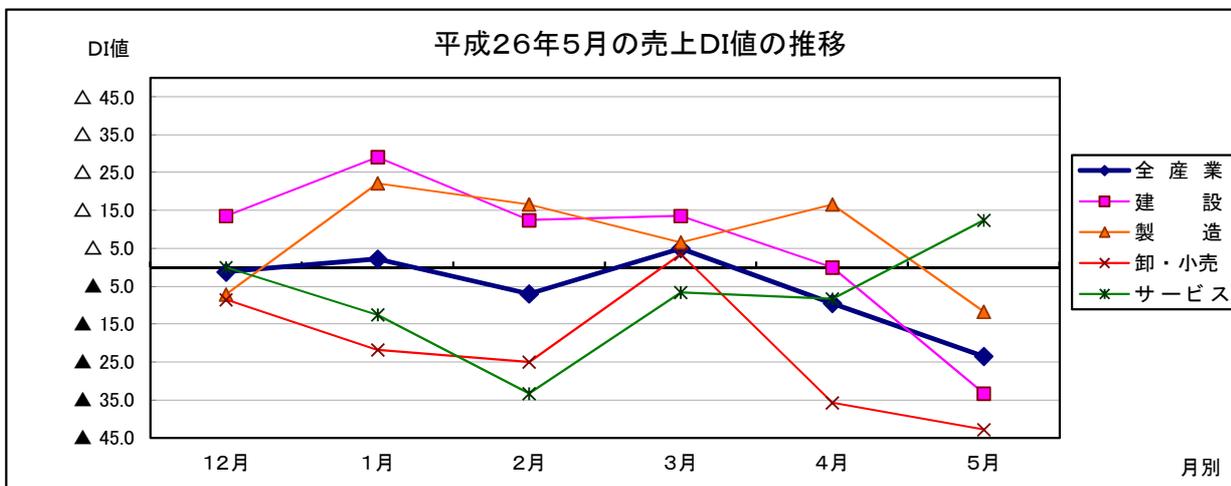
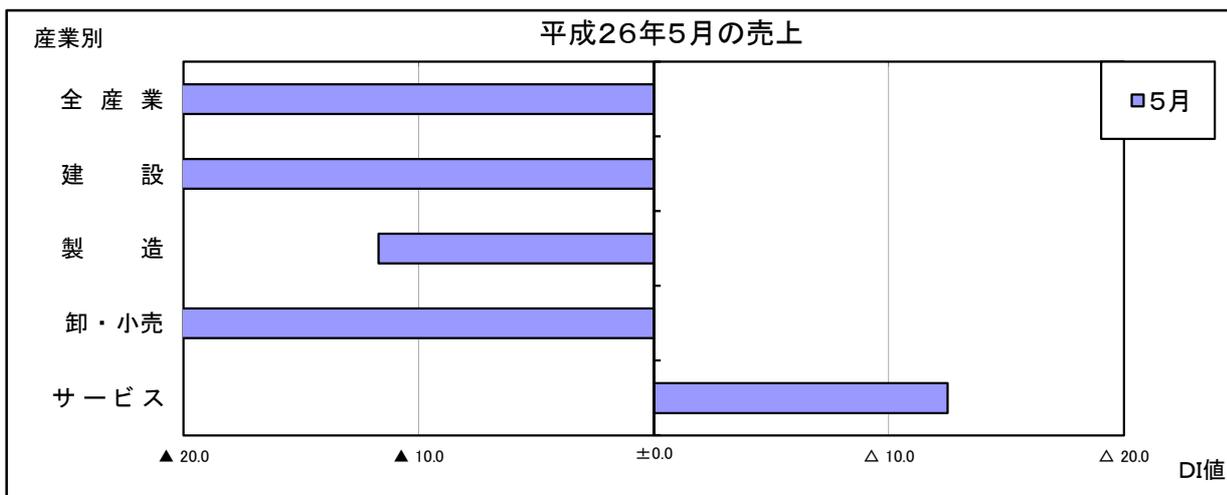
業種別では、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△12.5(同▲8.3)である。プラスからマイナスに転じた業種は、幅の大きい順に建設業▲33.3(同±0.0)、製造業▲11.7(同△16.6)であり、それぞれ33.3ポイント、28.3ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲42.8(同▲35.7)である。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲11.7(前月水準▲14.2)となり、マイナス幅が2.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業±0.0(同▲3.8)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲35.7(同▲39.2)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△6.2(同△8.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲5.8(同▲5.5)である。

平成26年5月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 12月	平成26年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲1.2	△2.2	▲7.0	△5.0	▲9.5	▲23.5	▲11.7(▲14.2)
建設	△13.6	△29.1	△12.5	△13.6	±0.0	▲33.3	±0.0(▲3.8)
製造	▲7.1	△22.2	△16.6	△6.6	△16.6	▲11.7	▲5.8(▲5.5)
卸・小売	▲8.5	▲21.8	▲25.0	△3.5	▲35.7	▲42.8	▲35.7(▲39.2)
サービス	±0.0	▲12.5	▲33.3	▲6.6	▲8.3	△12.5	△6.2(△8.3)



【平成26年5月の採算についての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲31.7(前月水準▲26.1)となり、マイナス幅が5.6ポイント拡大した。

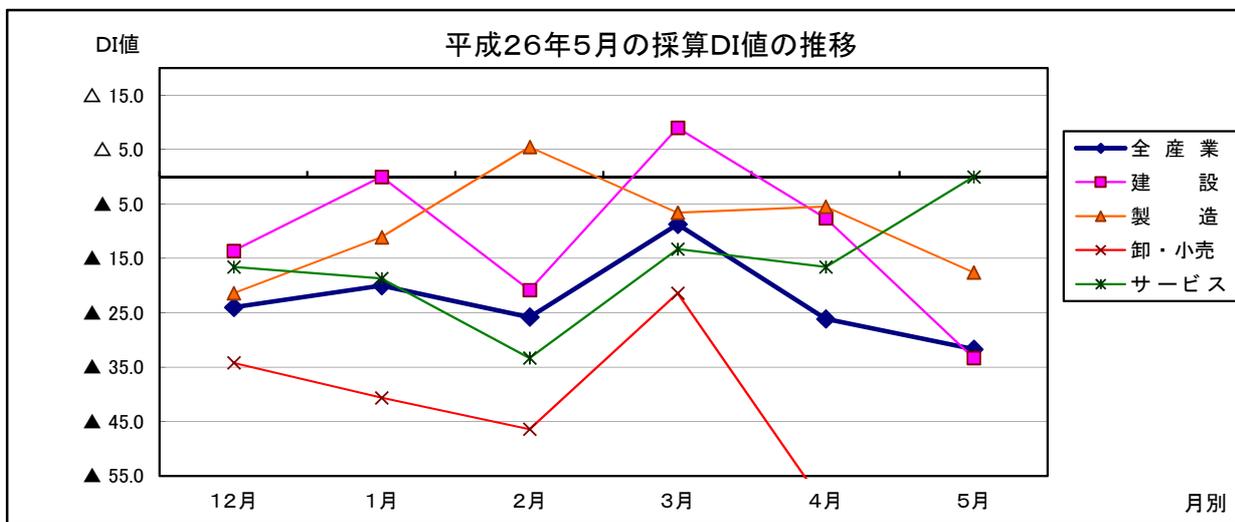
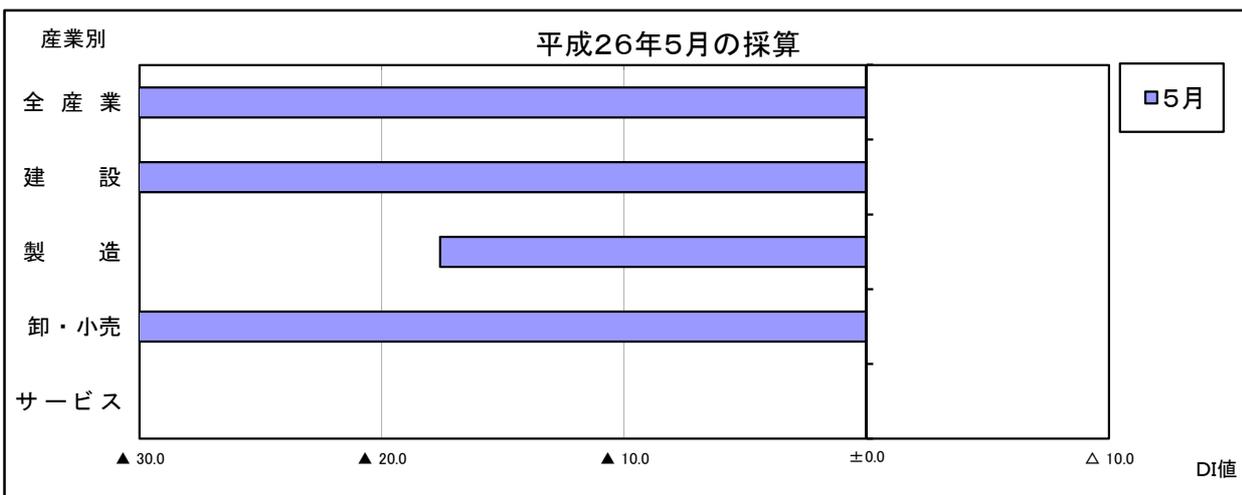
業種別では、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業±0.0(同▲16.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲57.1(同▲60.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲33.3(同▲7.6)、製造業▲17.6(同▲5.5)である。特に、建設業はマイナス幅が25.7ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲23.5(前月水準▲27.3)となり、マイナス幅が3.8ポイント縮小する見通しである。

マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業±0.0(同▲5.5)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲50.0(同▲64.2)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲12.5(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲16.6(同▲15.3)である。

平成26年5月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 12月	平成26年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲24.0	▲20.0	▲25.8	▲8.7	▲26.1	▲31.7	▲23.5(▲27.3)
建設	▲13.6	±0.0	▲20.8	△9.0	▲7.6	▲33.3	▲16.6(▲15.3)
製造	▲21.4	▲11.1	△5.5	▲6.6	▲5.5	▲17.6	±0.0(▲5.5)
卸・小売	▲34.2	▲40.6	▲46.4	▲21.4	▲60.7	▲57.1	▲50.0(▲64.2)
サービス	▲16.6	▲18.7	▲33.3	▲13.3	▲16.6	±0.0	▲12.5(±0.0)



【平成26年5月の仕入単価についての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲50.5(前月水準▲60.7)となり、マイナス幅が10.2ポイント縮小した。

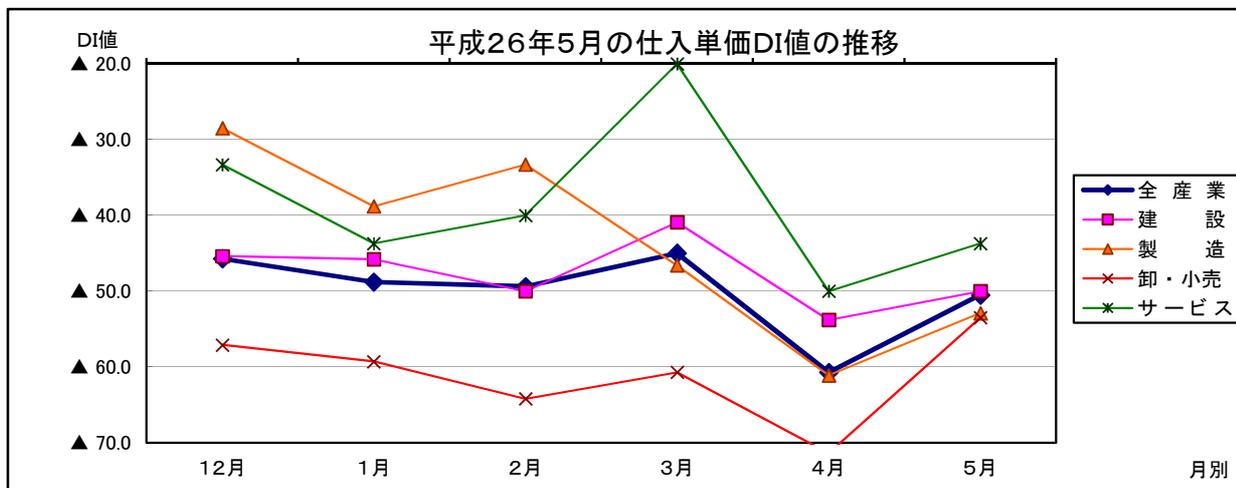
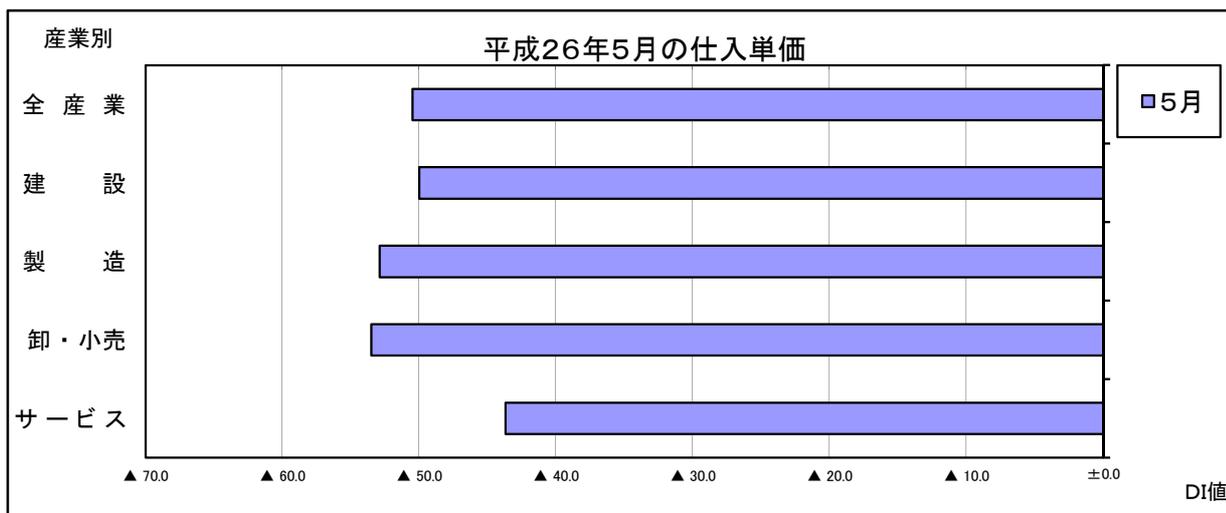
業種別では、全ての業種でマイナス幅が縮小しており、幅の大きい順に、卸小売業▲53.5(同▲71.4)、製造業▲52.9(同▲61.1)、サービス業▲43.7(同▲50.0)、建設業▲50.0(同▲53.8)である。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲38.8(前月水準▲44.0)となり、マイナス幅が5.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、全ての業種でマイナス幅が縮小する見通しであり、幅の大きい順に、製造業▲35.2(同▲44.4)、建設業▲37.5(同▲42.3)、サービス業▲37.5(同▲41.6)、卸小売業▲42.8(同▲46.4)である。

平成26年5月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 12月	平成26年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲45.7	▲48.8	▲49.4	▲45.0	▲60.7	▲50.5	▲38.8(▲44.0)
建設	▲45.4	▲45.8	▲50.0	▲40.9	▲53.8	▲50.0	▲37.5(▲42.3)
製造	▲28.5	▲38.8	▲33.3	▲46.6	▲61.1	▲52.9	▲35.2(▲44.4)
卸・小売	▲57.1	▲59.3	▲64.2	▲60.7	▲71.4	▲53.5	▲42.8(▲46.4)
サービス	▲33.3	▲43.7	▲40.0	▲20.0	▲50.0	▲43.7	▲37.5(▲41.6)



【平成26年5月の従業員についての状況】

○5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲1.1(前月水準±0.0)となり、マイナス方向へ1.1ポイント拡大した。

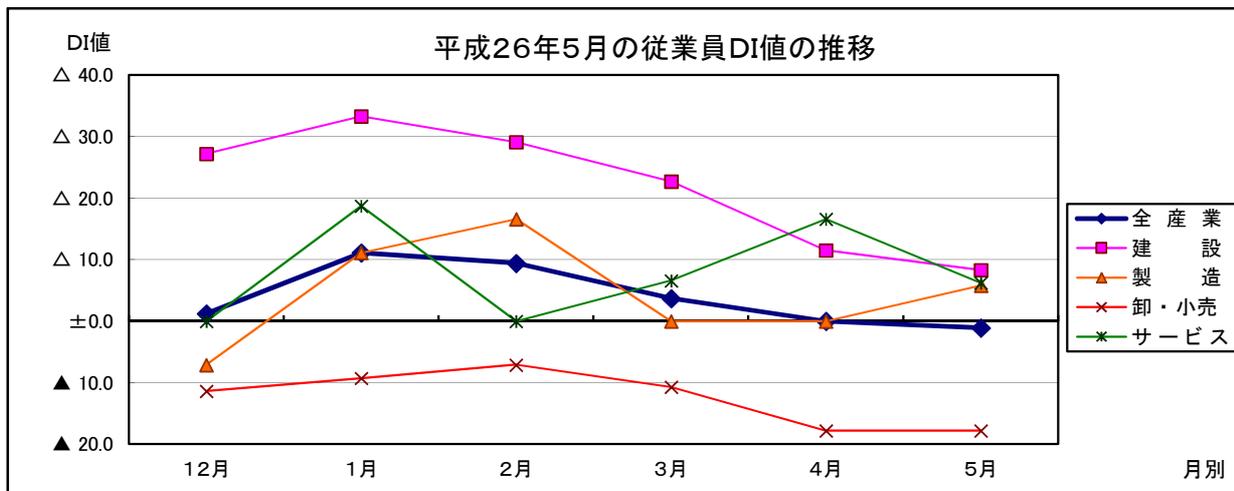
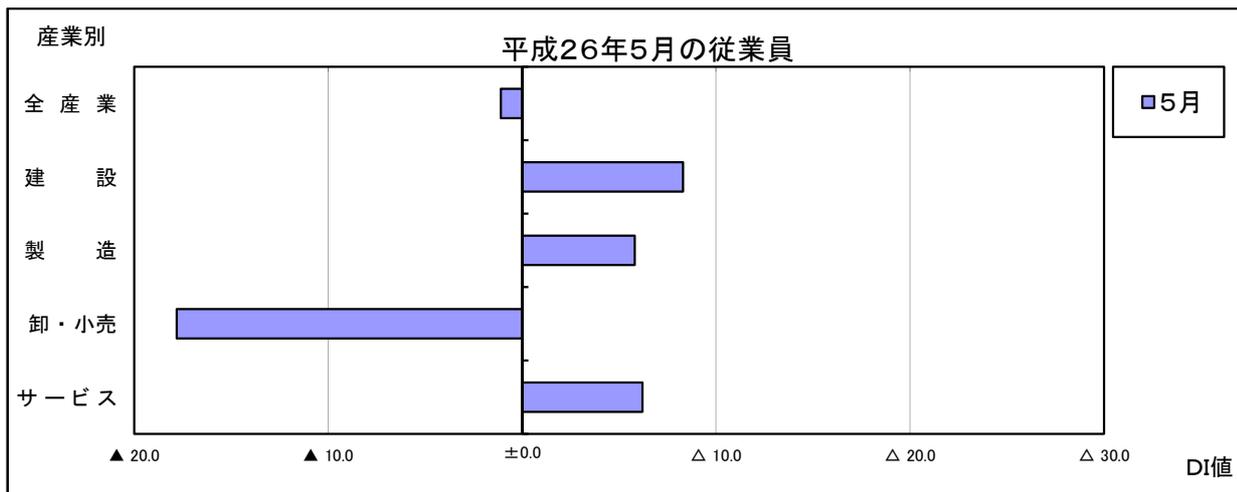
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△5.8(同±0.0)である。変らない業種は、卸小売業▲17.8(同▲17.8)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業△6.2(同△16.6)、建設業△8.3(同△11.5)である。

○向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、±0.0(前月水準△3.5)となり、プラス幅が3.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△11.7(同±0.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△4.1(同△19.2)、サービス業△6.2(同△8.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲14.2(同▲10.7)である。

平成26年5月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 12月	平成26年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	△1.2	△11.1	△9.4	△3.7	±0.0	▲1.1	±0.0(△3.5)
建設	△27.2	△33.3	△29.1	△22.7	△11.5	△8.3	△4.1(△19.2)
製造	▲7.1	△11.1	△16.6	±0.0	±0.0	△5.8	△11.7(±0.0)
卸・小売	▲11.4	▲9.3	▲7.1	▲10.7	▲17.8	▲17.8	▲14.2(▲10.7)
サービス	±0.0	△18.7	±0.0	△6.6	△16.6	△6.2	△6.2(△8.3)



【平成26年5月の資金繰りについての状況】

○ 5月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.1(前月水準▲7.1)となり、マイナス幅が7.0ポイント拡大した。

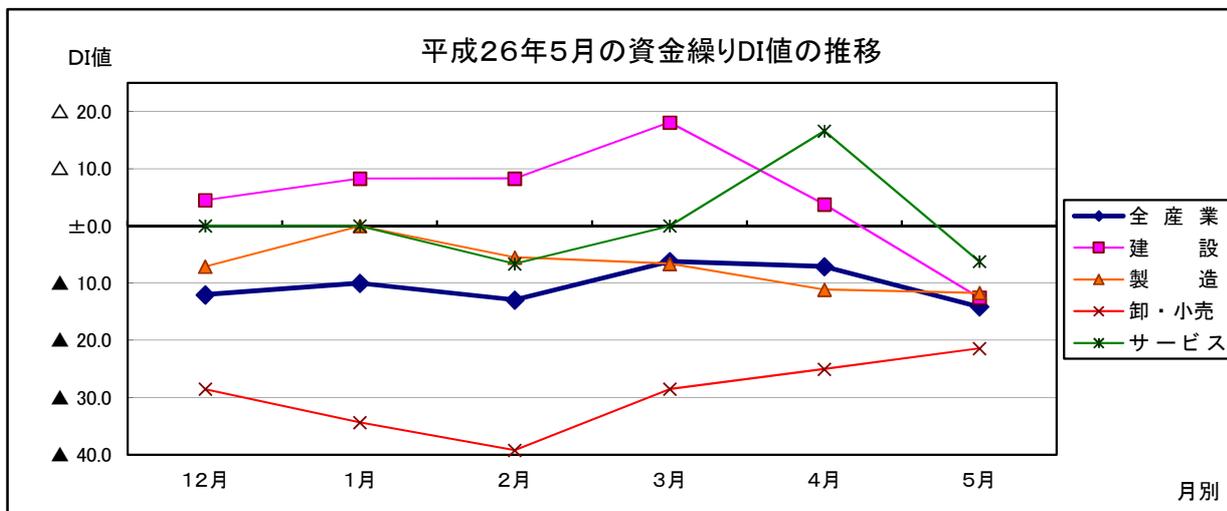
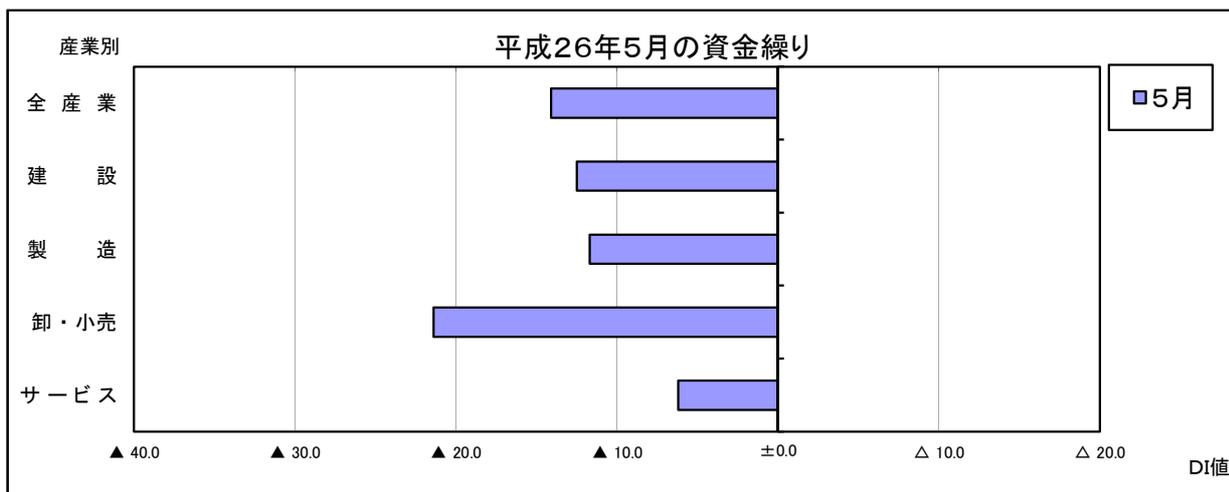
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲21.4(同▲25.0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、幅の大きい順に、サービス業▲6.2(同△16.6)、建設業▲12.5(同△3.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲11.7(同▲11.1)であ

○ 向こう3ヶ月(6月から8月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.4(前月水準▲9.5)となり、マイナス幅が0.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業±0.0(同▲8.3)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲17.8(同▲32.1)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲4.1(同7.6)、製造業▲11.7(同±0.0)である。

平成26年5月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成25年 12月	平成26年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6月~8月(5月~7月)
全産業	▲12.0	▲10.0	▲12.9	▲6.2	▲7.1	▲14.1	▲9.4(▲9.5)
建設	△4.5	△8.3	△8.3	△18.1	△3.8	▲12.5	▲4.1(△7.6)
製造	▲7.1	±0.0	▲5.5	▲6.6	▲11.1	▲11.7	▲11.7(±0.0)
卸・小売	▲28.5	▲34.3	▲39.2	▲28.5	▲25.0	▲21.4	▲17.8(▲32.1)
サービス	±0.0	±0.0	▲6.6	±0.0	△16.6	▲6.2	±0.0(▲8.3)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 23.5	▲ 11.7	▲ 31.7	▲ 23.5	▲ 50.5	▲ 38.8	▲ 1.1	±0.0
建設	▲ 33.3	±0.0	▲ 33.3	▲ 16.6	▲ 50.0	▲ 37.5	△ 8.3	△ 4.1
製造	▲ 11.7	▲ 5.8	▲ 17.6	±0.0	▲ 52.9	▲ 35.2	△ 5.8	△ 11.7
卸・小売	▲ 42.8	▲ 35.7	▲ 57.1	▲ 50.0	▲ 53.5	▲ 42.8	▲ 17.8	▲ 14.2
サービス	△ 12.5	△ 6.2	±0.0	▲ 12.5	▲ 43.7	▲ 37.5	△ 6.2	△ 6.2

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 23.5	▲ 11.7	▲ 14.1	▲ 9.4
建設	▲ 20.8	▲ 4.1	▲ 12.5	▲ 4.1
製造	▲ 11.7	△ 11.7	▲ 11.7	▲ 11.7
卸・小売	▲ 46.4	▲ 42.8	▲ 21.4	▲ 17.8
サービス	±0.0	△ 6.2	▲ 6.2	±0.0

【平成26年5月の業種別業界内トピックス】

業種別	概況	キーワード	業種
建設	消費税の増税が落ち着き、工事の見通しもそこそこ。いまひとつ活気は無いが、今後の動きに期待している。	消費税増税	電気工事業
	増税前の問い合わせにより、受注した仕事を消化している。増税前の見積りだったので、請求時に価格の相談を受けることがあり、増税分を全て反映させるのは少し難しい。4月以降問い合わせが減少しているため、これからは不安がある。	駆け込み需要の反動 価格転嫁 4月減少	塗装工事業
	材料は高騰したまま下がらず、施工単価は見直しされないままである。むしろ現在物件が少ない状態の為、値引きを強いられている。採算の合わない状態に受注出来ない物件が多い。4月に入ってから続いている業況に材料メーカー下請けからの仕事の問い合わせが頻繁である。どこも新築物件は減っている。ただ、3月迄に間に合わなかった改修工事やメンテ、リフォーム工事の話から見積り依頼が出てきている。	仕入単価上昇 施工単価変わらず 値引きの強要 不採算工事 新築物件減少 改修工事	その他の職別工事業
	消費税の影響で仕入単価が上昇。駆け込み前の反動が引き続きあり、受注は減少。しかし、梅雨前に畳を新しくしたり、畳表替や裏返しを模様替え感覚でやりたいというお客様が増えてきていることに感謝。	消費税増税 受注減 仕入単価上昇 駆け込み需要の反動	内装工事業
製造業	1～2年先の話も出てきており、それに伴う設備投資を行う予定。	設備投資	特殊産業用機械
	インドネシアがニッケル鉱石の輸出を止めたことやウクライナ問題を巡るロシアの供給不安により、ニッケル単価が上昇を続けており、それに伴ってステンレスの価格が高騰している。	仕入単価上昇 ウクライナ問題 ステンレス価格高騰	その他の機械・同部品製造業
	目まぐるしく変化する経済状況の中で、先を見通すことは困難であるが、精神的にはプラス思考でありたいと思う。現在が経済的冰河期とするならば、身を縮小して静観するのでもありと思う。	見通し困難 経済的冰河期	印刷業
	4月は消費税増税の反動があり、商品在庫が過剰となったが、その後持ち直しつつある。	駆け込み需要の反動 商品在庫過剰	酒類製造業
	時計・宝飾品の高額品および化粧品といった増税特需の恩恵を受けた商材は4月に続き反動で苦戦。但し、客数のトレンドは回復遅いも客単価は前年並みまで回復。	高額品苦戦 駆け込み需要の反動 客単価回復	百貨店
	どういった訳か増税後売上が伸びている。今月は月初かなり落ち込んでいたが、その後盛り返し、若干の伸びを見せている。客単価も伸びている。しばらく来店が無かったお客様が戻っている感じ。	売上増加 駆け込み需要の反動 客単価増加	婦人・子供服小売業
	5月はゴールデンウィークがあり、街に人が少なく、行楽地での消費が多かったのか、休み明けでも人が少ないように思える。15日を過ぎて修理関係は戻って来たように思えるが、小売全般は低迷。	ゴールデンウィーク 小売低迷	時計・眼鏡・光学機械小売業
	消費税が上がってから、調味料、洗剤等が大きく下降している。2ヶ月経ちますがまだまだ回復できない。生鮮品等も客数が減少していることから売上も下がったままになっている。	駆け込み需要の反動 売上減少	その他の各種商品小売業
	4月の駆け込みの反動減は収まりつつあるが、従来の落ち込みに戻っただけ。今後も「激安」と「高級志向」の2極化が進みそう。	駆け込み需要の反動	その他の各種商品小売業
	飲食店向け卸が不調。	飲食店向け卸業績不振	食肉小売業

【平成26年5月の業種別業界内トピックス】

卸小売	例年以上に5月のGW明けの落ち込みが大きかった。消費税増税の反動がここにきて出てきたのか。	ゴールデンウィーク 消費税増税 駆け込み需要の反動	菓子・パン小売業
	ギフトの高額商品(3,000円以上)の売上鈍化。	高額商品の売上鈍化	菓子・パン小売業
	昨今の経済情勢は、TPPの動きが早まるのか、農業改革を実行して成長戦力を果たすのか、青果物に携わる業界としては、消費税8%の改正で少し消費が落ち着くかとの経済効果を期待する反面、日本経済は自由化をどこまで緩和させ、生産者や消費者の選択が良い方向に向かうのか、景気向上してほしいものです。野菜は最近の気温上昇により露地物を中心に入荷増加傾向にあり、値下げしそうです。果実は2月の雪害の影響から入荷量は減少傾向で、価格は高値動きが予想されます。今後も産地情報や消費者の情報をもとに買出人への橋渡しとして取引拡大を図りたい。	TPP 消費税増税 気温上昇 雪害	食料・飲料卸売業
	消費税増税後の買い控えの影響はなくなってきました。仕入れ原価の上昇は続いています。	消費税増税 買い控え 仕入単価上昇	各種食料品小売業
	慢性的な人手不足が続き、将来に不安を感じる。仕事は順調に推移しているが、人手不足により受注を制限している状況。	人手不足 受注制限	一般機械器具卸売業
夏物が好調でしたが、天候不順で鈍る(夏服・飲料)。増税分の価格表示に検討の余地あり。各種店舗を参考にしているが、全商品に活かすきれない。今年に入り人材が不足がち。カード会員の効果が出ているためか、遠方からのリピート来店がある。	天候不順 消費税増税 価格表示 人手不足 カード会員	その他の飲食料品小売業	
サービス	【法人需要】秋の職場旅行、招待旅行の案件が活性化している。国土交通省定めによる新貸切バス運賃制度による貸切バス代金の上昇。【個人需要】海外旅行では、夏休み商戦真っ只中。家族でグアム、サイパンが人気。国内旅行では、夏休みの某テーマパークが人気。新しく発売となった商品の入場待ち短縮時間で。	職場旅行、招待旅行 新貸切バス運賃制度 貸切バス代金上昇 夏休み商戦	旅行業
	不動産価格は僅かですが上昇傾向にあります。来客は不変です。売り物件が減少しています。	不動産価格上昇 売り物件減少	不動産管理業
	管理物件の修繕を1月くらいに依頼したが、まだ業者が忙しいようで未着手となっている。	物件の修繕遅延	不動産賃貸業
	賃貸住宅は年度内の繁忙期に入居者入替りが少なく、年度末過ぎの退去が重なったため、空き室率が上がってしまった。改善には時間が必要。1階テナントには需要はあるが、高層階の稼働は時間を要す。また、光熱費等の管理費の増加を実感しています。	空き室率増加 管理費用増加	不動産賃貸・管理業
	前年同月との比較は良好ではありますが、このところ材料の仕入れ値段の上昇が激しくなり、また、当月後半は売上が悪くなり、今後は厳しくなりそうです。	仕入単価上昇 売上悪化	酒場・ビヤホール
なかなか厳しさを変わらず。スピードと生産性のバランスが合致出来ず人件費がかさむ傾向となっている。現代の進化に取り残されると技術力不足になってしまうIT製造業。対外的、社会的な社員不足が続く。	人件費増 社員不足	ソフトウェア業	

◎消費税増税

消費税の増税が落ち着き、工事の見通しもそこそこ。いまひとつ活気は無いが、今後の動きに期待している。

電気工事業

夏物が好調でしたが、天候不順で鈍る(夏服・飲料)。増税分の価格表示に検討の余地あり。各種店舗を参考にしているが、全商品に活かしきれない。今年に入り人材が不足がち。カード会員の効果が出ているためか、遠方からのリピート来店がある。

その他の飲食料品小売業

◎駆込み需要の反動

増税前の問い合わせにより、受注した仕事を消化している。増税前の見積りだったので、請求時に価格の相談を受けることがあり、増税分を全て反映させるのは少し難しい。4月以降問い合わせが減少しているため、これからは不安がある。

塗装工事業

例年以上に5月のGW明けの落ち込みが大きかった。消費税増税の反動がここにきて出てきたのか。

菓子・パン小売業

◎仕入単価上昇

材料は高騰したまま下がらず、施工単価は見直しされないままである。むしろ現在物件が少ない状態の為、値引きを強いられている。採算の合わない状態に受注出来ない物件が多い。

その他の職別工事業

インドネシアがニッケル鉱石の輸出を止めたことやウクライナ問題を巡るロシアの供給不安により、ニッケル単価が上昇を続けており、それに伴ってステンレスの価格が高騰している。

その他の機械・同部品製造業

消費税増税後の買い控えの影響はなくなってきました。仕入れ原価の上昇は続いています。

各種食料品小売業

平成26年5月CCI - LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲23.5に対し、「CCI-LOBO」が▲21.8で柏の方がマイナス幅が1.7ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は製造業、卸小売業、サービス業で、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業で、10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲23.5に対し、「CCI-LOBO」が▲17.2で柏の方がマイナス幅が6.3ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は卸小売業、サービス業で、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、製造業で、建設業では10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲31.7に対し、「CCI-LOBO」が▲25.0で柏の方がマイナス幅が6.7ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種はサービス業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、製造業、卸小売業で、建設業では10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲50.5に対し、「CCI-LOBO」が▲52.0で、柏の方がマイナス幅が1.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、製造業、サービス業で、建設業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲1.1に対し、「CCI-LOBO」が9.8で柏の方がマイナス方向へ10.9ポイント大きい。業種別では全ての業種で「柏の景気」の方が悪く、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲14.1に対し、「CCI-LOBO」が▲13.0で柏の方がマイナス幅が1.1ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は小売業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、製造業である。

平成26年5月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI \geq 50	好調 50>DI \geq 25	まあまあ 25>DI \geq 0	不振 0>DI \geq ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 23.5	 ▲ 20.8	 ▲ 11.7	 ▲ 46.4	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 21.8	 ±0.0	 ▲ 12.4	 ▲ 50.0	 ▲ 19.1

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 23.5	 ▲ 33.3	 ▲ 11.7	 ▲ 42.8	 △ 12.5
CCI-LOBO	 ▲ 17.2	 △ 1.8	 ▲ 5.1	 ▲ 47.0	 ▲ 13.0

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 31.7	 ▲ 33.3	 ▲ 17.6	 ▲ 57.1	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 25.0	 ▲ 16.3	 ▲ 14.0	 ▲ 47.3	 ▲ 23.3

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 50.5	 ▲ 50.0	 ▲ 52.9	 ▲ 53.5	 ▲ 43.7
CCI-LOBO	 ▲ 52.0	 ▲ 64.8	 ▲ 55.0	 ▲ 45.0	 ▲ 51.0

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 1.1	 △ 8.3	 △ 5.8	 ▲ 17.8	 △ 6.2
CCI-LOBO	 △ 9.8	 △ 15.5	 △ 7.3	 △ 10.1	 △ 12.2

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 14.1	 ▲ 12.5	 ▲ 11.7	 ▲ 21.4	 ▲ 6.2
CCI-LOBO	 ▲ 13.0	 ▲ 4.9	 ▲ 6.5	 ▲ 25.4	 ▲ 15.4

は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (5月速報)

調査期間：平成26年5月16日～22日

調査対象：全国の422商工会議所が3135企業
組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、2カ月連続悪化。先行きは不透明感残るも、底打ちの兆し

5月の全産業合計の業況DIは、▲21.8と、前月から▲7.7ポイントの大幅悪化。ただし、「好転」から「不変」への変化が影響したことにより留意が必要。建設業や自動車関連などは堅調に推移したものの、一部では、4月にずれ込んだ受注残の消化による業況の押し上げ効果が今月に入り剥落したほか、小売業を中心に駆け込み需要の反動による影響が残る状況が伺える。また、業種を問わず、仕入や電力料金、人件費などのコスト増が続く中、価格転嫁が進まないとの声もあり、地域の中小企業においては、業況改善に遅れがみられる。

先行きについては、先行き見通しDIが▲20.8（今月比+1.0ポイント）と、ほぼ横ばいを見込む。仕入や電力料金、人件費などのコスト増加分の価格転嫁に加え、受注・売上の回復遅れや消費者マインド低迷の長期化などへの懸念から先行きに対して慎重な判断が続く。他方、賃上げなどを背景に個人

消費が下支えし、夏から秋にかけて回復するとの声が聞かれるなど、前向きな見方も伺える。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「公共工事・民間工事とも受注はあるが、資材価格の高止まりや人件費の負担増により、採算が合わない」（一般工事業）、「技術系の新卒・中途採用を行ったが、計画した人数には届かず、人手不足が慢性化している」（建築工事業）、「4～5月の受注低迷を見込んでいたが、公共工事が堅調に推移し、業況は改善傾向にある」（左官工事業）

【製造業】「受注単価の伸び悩みや仕入価格の上昇に加え、電力料金の負担増が続き、採算は厳しい」（製造業）、「受注の落ち込みが懸念されたが、今のところ影響は軽微。ただ、先行きは主要取引先である自動車メーカーの動向次第のため、楽観できない」（ばね製造業）、「足元の業績は堅調なもの、取引先からのコストダウン要請が強まっており、採算面で不安が残る」（半導体電子部

品製造業

【卸売業】「国内外で発生した豚の伝染病の影響により、豚肉の仕入価格が高騰。転嫁が追い付かず、収益が圧迫されている」（畜産物卸売業）、「3月に契約した案件の納品が遅れていたため、ある程度の売上は確保できているが、新規受注は例年より2～3割程度減少」（ネジ卸売業）、「運送費などのコスト増加分の転嫁が進んでいない。また、駆け込み需要の反動による受注低迷も続いており、業績の回復時期が見通せない」（家具卸売業）

【小売業】「食料品は駆け込み需要の反動から回復しつつあるが、衣料品や日用品などは依然として厳しい」（総合スーパー）、「消費者の節約志向が強まっており、競合店やネット販売との価格競争が激化。先行きが不透明な状況」（文具販売店）、「駆け込み需要の反動の影響が続く中、近所に大手小売店が出店。顧客が流れ、売上が落ち込んでいる」（商店街）

【サービス業】「軽油価格上昇分の転嫁をしたいが、取引先の理解が得られず、厳しい状況」（運送業）、「ゴールデン

ウィークの日並びが悪く、県外からの観光客が伸び悩んだ」（飲食店）、「イベント等の集客効果に加え、工事関係者の利用もあり、稼働率は高水準で推移」（旅館業）

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
12月	▲7.4	14.0	▲2.4	▲10.6	▲24.2	▲9.1
1月	▲3.1	18.4	1.9	▲9.1	▲14.3	▲10.4
2月	▲7.7	12.7	0.3	▲15.3	▲16.8	▲16.8
3月	▲4.4	11.0	0.6	▲5.7	▲6.3	▲17.3
4月	▲14.1	5.9	±0.0	▲20.9	▲38.2	▲14.7
5月	▲21.8	±0.0	▲12.4	▲22.9	▲50.0	▲19.1
見通し	▲20.8	▲5.8	▲18.1	▲16.5	▲39.6	▲18.1

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI